



2015年6月6日発行

No.37

早稲田大学本庄高等学院通信

発行：早稲田大学本庄高等学院 発行人：吉田 茂 〒367-0032 埼玉県本庄市栗崎239-3 ☎0495-21-2400 【URL】http://www.waseda-honjo.jp

エゴノキの花、柳絮、桐花、そして二つの交流校

学院長 吉田 茂



大久保山を歩いていると、エゴノキから白い花が落ち、残雪に見紛う光景に出くわす。桜花の落花で通学路を一面の雪野に見せた四月初旬からもう一月余りが過ぎた。紀貫之の「桜散る木の下風は寒からで空に知られぬ雪ぞ降りける」の歌を引くまでもなく、落花を雪に見る習慣は古くからあった。中国でも、白居易が「楊柳枝で「白雪花繁く空しく地を撲つ／緑糸条えだ」弱く鶯にも勝（た）へず」とうたう柳絮は白雪に見立てられる唐詩の題材であった。しかし、今では綿毛状のそれは、髪に付いたり洗濯物に付いたり春の厄介者である。台湾では白い油桐の花が有名ならしい。春五弁の花が散る様子はいかにも雪を思わせ、一面の落花は雪原そのもので、その季節「客家（はつか）の人々は桐花祭を催し祝うという。

柳絮にはまだ早い三月二十五日に北京を訪れた。修学旅行で四年ぶりに北京コースを復活するためその下見と、北京大学附属中学に交流再開をお願いするのが主な目的である。とは言っても、北京コースの責任者である田邊潤先生の下見に同道したにすぎない。事前情報では王錚校長にはお会いできないのではないかと危ぶまれたが、会議を早めに切り上げられた王先生は我々と面会し、申し出を快諾された。その後、自ら校内を二時間以上にわたって案内してくださった。昼には食堂の個室に通され、白酒や糖醋里魚などの料理で大歓迎を受けた。これこそが老朋友（古くからの友人）を大切にされる国の接待法だと合点したのである。

北京大学附属中学は、中学部課程の修了者は、中国古代の書院制度を模し創設されたという八書院のいずれかに属し、異学年集団を構成することになる。校内で行われるスポーツ大会は、書院の対抗戦として行

われるようだ。また、単位制の教育課程となつたので、各自が選択した科目を履修し、最大二〇名程度で授業が行われていた。さらに、国際部（年間授業料十万元＝約二〇〇万円）では、百名の生徒が学んでいるという。中国語以外はすべて英語による授業で、その多くがアメリカやカナダ、そしてアジアの大学に留学するそうだ。国際化の点では大分先行き

された感である。五年ぶりの北京は巨大なビジネスビルが増え、胡同（フートン）の跡地に巨大なマンションが屹立する、いよいよ躍動感溢れる町に進化していた。

桐花の咲く五月一日には台中市にある國立臺中第一高級中學の百周年記念式典に出席した。式典と祝賀行事は九時に始まり十七時に及んだ。國立臺灣交響樂團のミニコンサートも素晴らしいだったが、臺中一中生による中国古楽器の演奏が最も印象的であった。千五百人に及ぶ祝賀夕食会も壮観であった。それに先立ち各界で活躍される卒業生の表彰や三代以上にわたって臺中一中生であった家族の表彰が行われた。いずれも百年の重みを感じるもので、伝統校の威信を懸けての祝賀会であった。

「櫻桃小丸子」（ちびまる子ちゃん）が毎日放送され、日本の車やバイクが疾駆する台中市で、陳木柱校長を始めとする優しき先生方と出会い良い経験ができた。



この面校と交流できることを贅沢に思う。各校に何を学び、どう生かしてゆくか、学院生とともに考えていきたい。

大久保山から早稲田の杜へ

保護者の会会長 諏訪 丈晴



一昨年、昨年と早稲田大学のキャンパスツアーに参加して、痛切に感じたことがあります。それは、学部説明をしてくれた学生達が凄いのです！もちろん、学部の担当教授は手馴れていて素晴らしいご説明をして頂きましたが、慣れてなさそうな学生の説明が凄いです！特に女子学生。もちろんみなさん本庄高等学院の卒業生でした。

まるで、大久保山で育った若鳥が少し力をつけて早稲田の杜に飛び立ち、多くの経験を重ねて成長し自信に満ち溢れた親鳥となつたように、本庄高等学院の卒業生は、瞳を輝かせて自分が所属する学部のプレゼンテーションをしてくれていました。

このような素晴らしい学生に出会えて、今一度本庄高等学院の環境の良さ、教育の良さを再認識しました。プレゼンしてくれた卒業生は、感受性あふれる10代後半を本庄高等学院で過ごしたことが、少なからず彼ら、彼女らの人格形成に影響していると思います。

ダイヤモンドの原石のような素質を持った新入生が、互いに競争しあひ、協力し合い切磋琢磨しながら成長し、少しずつ輝きを増しながら早稲田大学へと巣立っていく。大学4年生になると、先に述べたような自信に満ちた、立派な大人になっている。そんな成長の場を与えてくれるのが本庄高等学院ではないでしょうか。

生徒一人一人が自分の意志で一步一步進み、また級友と協力しながら素晴らしい大人になっていく。本庄高等学院では、自分の意志で自分の進むべき道を決める立と前には進めません。つまり、自己の確立が求められています。また、ラグビーでよく、One for All, All for One. という言葉が使われます。一般的には「二人はみんなのために、みんなは一人のために」と訳されます。私はこう考えます。「二人はみんなのために、みんなで一丸となって」み

んなが一人のために行動するのではなく、みんなで一つの目標に向かって一致団結して力を合わせる。そうすれば素晴らしい成果が得られる。体育祭や稲稜祭などで、クラス全員のベクトルを合わせると凄い成果が得られる事が、チームワークの大切さ、級友との協力の大切さを端的に表しているのではないのでしょうか。

各個人が自分で個性を磨き、また仲間とのコミュニケーションを大切にすることで人を思いやれる人間に育っていく。「物事を損得で判断するのではなく、善悪で判断できる人間になっていく」そんな大人に育ってほしいと思いますし、育っていただけるのが本庄高等学院です。

私たち保護者は、そんな子供たちのためにサポーターになつていきたいと思います。

サッカーのサポーターは、雨が降ろうと風が吹こうと、どんなに大変なときも選手にエールを送り続けています。いつでも温かく見守り、選手が挫けそうになると一生懸命選手を信頼して応援しています。選手は心が折れそうになつても、サポーターのエールに後押しされて頑張ることができま

す。私たちは、子供たちにとってそのような存在になれればと思います。また、保護者の会は生徒への様々な支援を行うとともに、保護者同士のコミュニケーションを図る事を目的に活動しています。子供たちのおかげで保護者も楽しむことが出来る、これが本庄高等学院の保護者の会です。

行動を起こすとき、「どうせやるなら、一生懸命やろう。そして、楽しくやろう」と考えて行動すると、その結果は考えていた以上の素晴らしい結果になります。生徒の皆さんも、そのように考えて楽しく素敵な結果を出して下さい。

生徒の皆さんが大久保山で少しずつ成長して、逞しい翼を広げて早稲田の杜に巣立っていく姿を、ワクワクしながら見守っています。そして、大学4年生になったら、今度は皆さん自身がキャンパスツアーで自信にあふれたプレゼンテーションを行って下さい。全生徒の明るい未来を、そして皆さんが本庄高等学院の生徒で良かったと思える学生生活を送られることを心から願っています。



鉄は熱いうちに打て▼強く、しなやかで、切れ味鋭い鉄製品を作るには、よく熱して赤くならした鉄をしっかりと打つことが良い。人間も同じで、今という時期を逃さず学習や運動に打ち込み、鍛錬せよという。だから我々教員は、学院生に対して「今しっかり勉強するんだ」とか「今ここで頑張つて練習するんだ」のよう

に、「打つ」ことを迫る。しかし、それは鉄が熱くなつていてこそ意味のあることであつて、打つ対象がその学院生にとつて全く関心のないもので、冷え切つて固くなつている部分であれば、「打つ」ことはただ辛いだけでなく鉄製品そのものを痛めてしまう。「打つ」ことよりも大切なことは、打つ対象が「熱く」なっているかである。学習でも運動でも、その対象が学院生本人にとつて真つ赤になつた熱いものであるかが大切である。学院生にはぜひ確認してほしい。今必死に打っている対象は、自分にとって本当に熱くなっている部分かどうか。間違いない確に熱い部分に対して打ち込んでいくかを。

ウサギとカメ▼優れた脚力を持つウサギも、勝負している相手（カメ）との大差に油断してしまつて敗北してしまつた。また、カメのように例え他人（ウサギ）と比べてスローペースであっても歩みを止めず前進を続ければ勝利を手に入れることができる。学院生はウサギとカメのどちらのようになりたいだろう。私は、この話に登場するようなカメに言いたいことがある。カメはウサギが寝ている間に先に勝利した。この勝利によってカメは何を得るのだろうか。カメさん！あなたに何が残るのですか？勝負とは、自分と相手が全力でぶつかつてお互いの力を出し切るから面白い。その結果が敗北であつたとしても自身と相手の実力差をはつきりと確認し、次の勝負で勝つために何が必要かを考え次へ向かう力としていくことが大切である。この一連の作業に勝負の意味があるのだと思う。カメには是非、寝ているウサギに対して「おい起きろよ！今勝負の最中だろ。もう一度勝負し直そう！」と声をかけてもらいたかつた。学院生は日ごろ、どんな勝負をしているのだろうか。（棚橋）



多民族国家オーストラリア

嘉 来 純

オーストラリアは多民族国家である。そのせいもあってか、日本人「訛り」の英語を話しても、「間違っただけ」英語を話しても、いわゆる「ネイティブスピーカー」と同等に扱われ、実に居心地が良かった。その一方、オーストラリア英語 (AusE English) の典型のあいさつとされる "G'day, mate!" (グダイ、マイツィー) という表現を耳にすることはほとんどなかった。

散髪をしにいったときのこと。近所のショッピングモール (Shopping mall: ユタアメリカ英語。メディアの影響でオーストラリアでもこの表現が広く使われるようになってきた。通常オーストラリアでは shopping centre と呼ばれる) にある床屋に行ってみた。アジア系の女性が担当。しゃべり方からしてある国から移住してきた人だろう、と想像しながら、私は少々緊張しながらもどのような髪形にするのかを説明する。いろいろと髪間話をしながら、そろそろ終わりに近づいてきたとき、彼女が "Where are you from?" と聞いてきた。私が "Japan" と答えると、しばらくの沈黙ののち、彼女は日本語で話し始めた。お互いに日本人とは分らずにいたのである。

私は妻と2人の娘を連れて一年間生活をしたのだが、住んだ場所は "Town house" と呼ばれる集合住宅地。出入り口となるゲートが一つあり、約二百世帯が同じ敷地内に住居を構える。おかげで娘たちの放課後は暇をすることがなかった。お世話になった方々は日本から移住してきた家族、パプアニューギニア出身の家族、オーストラリア人・ベトナム人夫妻とベトナム生まれの息子、ニュージールランド・マオリ族の一家、タスマニア州に引越してしまつたオーストラリア人一家、ポーランド生まれのお母さんとスイス生まれオーストラリア育ちの息子のお隣さん、等々。実に多彩である。

研究先の大学の人々も多彩で多才。学生の約半数は留学生。学生だけでなく、

お世話になった先生方の出身地も様々だ。まずは日本人の先生。まさかオーストラリアにまで来て日本人の先生にお世話になるとは思わなかったが、その先生はオーストラリアで PhD を取得され、言語学習における動機づけを専門としている。もうお一方はオーストラリア人。とはい

え二十年程日本で生活をし、十数年間桜美林大学で教授も務められた方だ。奥さんも日本人。三人目の先生はポーランド人。その先生は自分のポーランド語訛りの英語を誇りに思っていたが、実に明確な発音、正確な言葉づかいで、非常にわかりやすい。私にとっては "AusE English" よりも何倍もわかりやすかつた笑。実に博識で、非常に明るい性格。誰とでも何でも話をする。不幸なことに私のオーストラリア滞在中に、ポーランドにいら

つしやるお母様を亡くされたが、その後も明るくふるまっている姿を見て、人間の器の大きさを感心させてくれた。最後に私の友人でもあり、ニュージールランドの高等学校でスペイン語教師をしているイギリス人女性。十八歳でスペインに単身で渡り、十数年間滞在中に、ネイティブ並みのスペイン語を話す。フランス語とイタリア語も流暢に話すらしい。外国語学習に対する意見を私とは異にしたため、コーヒー (オーストラリアのコーヒーは種類が多くあっておいしい) を飲みながらよく議論をした。

あまりにも多民族な環境にいたため、「本当のオーストラリアがわからない」とポーランド人の先生にこぼしたことがある。その先生曰く、「それが本当のオーストラリアよ。」一年間という短期間で、多くの場所に行ったわけではないので一般化はできないが、オーストラリアが多民族国家であることは間違いない。



娘の誕生日会にて

活躍するOB・OGたち

大学における学院生の優位性と強さ



早稲田大学大学院
先進理工学研究科
物理学及応用物理学専攻1年

27期生 大 島 翼



大学における学院生の優位性と強さとは何か。受験をしないで大学に入ること、一般受験で入ってきた学生とこの学力的な差を不安に感じる学院生も少なからずいるのではないだろうか。私も学院生時代はその一人でした。しかし、私が4年間大学で過ごしてきた得た結論は、受験をせずに大学に進学したことはまったく不利にはならず、むしろ本庄高等学校で受けた高校生の枠を超えた先進的な学びは他の一般受験生と比べて圧倒的なアドバンテージになるということです。特に選択科目の存在は大きかつたと考えています。私は物理の中野先生に刺激を受け先進理工学部物理学科に進学しました。

物理学の理解において数学の微分・積分は切り離すことのできない重要な概念です。普通の高校の範囲であれば物理に微積分を使うということはありませんが、「解析学」という選択科目で微分方程式やフーリエ解析を学び、物理と数学を結びつけて考えることが高校生ながらにできるようになりました。それによって他の一般受験で入ってきた学生が戸惑う中、大学で学ぶ物理に戸惑うことなく取り組むことが出来ました。また、選択科目のみならず「情報」や「総合学習」といった科目で数多くのプレゼンテーションを行い培ったプレゼンスキル、そして卒論執筆において得た情報収集能力やメディアリテラシーは大学入学後大いに役立ちました。また、学院生の強さは大学入学をゴールとして捉えていないということ

にもあると思います。多くの受験生は早稲田大学に入るために死に物狂いで勉強し、いわば大学入学を終着点として捉えているため大学に入ってから何をするかということはありません。一方で、我々学院生にとって早稲田大学入学は終着点ではなく通過点であり、大学に入ったらどんなことをやりたいかを明確に考える時間があることでアクティブな大学生活を送ることができるといえるのも大きな強みです。私の場合は学院生の時から、大学ではまず体育会の部活動に所属し、そして学部では誰よりも物理に没頭して勉強しようと考えていました。実際、入学後は体育会空手部に所属し6歳から続けていた空手を続け、4年生のときは副将を務め心身ともに修練しました。学部においては日々押し寄せる幾多もの難解な数式や理論に圧倒されながらも、誰よりも努力し卒業時には並木賞 (物理学科最優秀成績賞) という栄誉ある賞を受賞させていただきました。私と同じ年度の学院出身の卒業生の中にも様々な学部で功績を残した友人がおり、学院生のポテンシャルは計り知れません。

現在、私は早稲田大学大学院の一年生で放射線検出器の研究をしており、簡単に言うとX線レントゲンやX線CT、PET (陽電子放射断層撮影) などのセンサー部分の開発をしています。研究はこれまでどのように何か解が一つ決まっているわけではありません。仮説、実験、考察の繰り返しの日々であり、内容は常に高度になっていきますが、学院時代から培ったロジカルな考え方や、プレゼン力は今も役に立ち、学院で学んだことに無駄は何一つなかったと今、胸を張って言い切れます。学院生の生きる道は明るいものです。学院での学びに全力で取り組み、自信と誇りを持って大学に入学してきてください。

文部科学省より
「スーパーグローバルハイスクール(SGH)」
に指定されました (2015年度～)

早稲田大学本庄高等学院は平成27年度よりSGH (Super Global High School)のうちの1校としての指定を受けました。今年度から5ヵ年計画で、地球のどこにいても自分の長所を発揮しながら活躍・貢献できる人材を育てる教育研究に取り組みます。

本学院の研究テーマは「国際共生のためのパートナーシップ構築力育成プログラム」です。本学院ではこれまでも、様々な場で生徒同士が素晴らしいチームワークを発揮して課題に取り組み、成果を挙げてきました。同学年間や異学年間で伝わるチームワーク経験という宝を大切にしながら、複数の分野・教科で国際共生に必要な素養を身に付け、社会に貢献する企画に取り組みます。

連携先は地元の企業や団体、早稲田大学、修学旅行やSSH等でご縁のある海外交流校です。人文・社会科学の分野を中心に、パートナーと密度の濃い連携をしながら教育研究開発を進めます。



Super Science High School事業報告（2014年12月～2015年5月）

■ **Waseda International Science and Engineering Symposium(WaSES)/2014** （12月16日～21日）
WaSESは、本庄学院主催の大規模な国際高校生科学シンポジウムです。ちゃんとした科学英語論文が書ける力を養成することを、その目的としているところ、他SSH校で行っている科学フェアと異なることが特徴です。今年度は昨年より参加校を拡大し、海外8校国内8校の生徒教員が集まり、研究発表・ポスターセッション・課題コンペ・文化交流・遠足等多彩なプログラムが展開されました。成功の裏には、パディ・スタッフとして協力してくれた多くの学院生の存在があります。

* プレゼンテーション部門(Venue2) 第1位、坂本玲・尾林舞香・山川冨子

* 論文部門 第2位, "Heterophily of Mulberry and Relation The Phytolith and Leaves", 坂本玲・尾林舞香・山川冨子、第4位, "The Component Analysis with Sonoluminescence", 新里真奈美・市川なつみ・菊地環



■ 冬休み子ども科学教室 （12月25日）

この日は、小学生低学年を対象とした、紙で作ったゼンマイで動くおもちゃを作る「いろいろなおもちゃを作ろう」、小学生高学年を対象としたゴム動力のおもちゃを作る「ゴムで動く不思議なおもちゃを作ろう」の2講座を午前・午後開催しました。募集は、各講座親子20組で、どの講座も一杯でした。

■ SSH特別講義「日産が考えるクルマの知能化～2020年までに自動運転カーを発売～」（1月19日）

講師は日産自動車開発能力・レジャーマネジメントグループチームリーダー・篠崎哲氏です。この講義は、すでに2年前より毎年開催しており、特に車や交通に興味のある学院生に好評です。

■ MWITS Science Fair 2015 （1月26日～31日）

タイのMahidol Wittayanusorn School(MWITS)で国際高校生サイエンスフェア
MWITS Science Fair2014が1月27日～30日の日程で開催されました。
本校からは飛知和志帆・水越百香・野澤修矢の3名が参加しました。
* ポスター部門(物理) "Challenging to 70K・Freezer Using Gifford McMahon Cycle", 優秀賞



■ 藤田小での授業 （2月4日、12日）



2月4日は、3月の市民シンポジウムにおける藤田小の発表に備え、「プレゼンテーションの名人になろう！(その2)」を行いました。特に後半は、児童たちに、最近アメリカでプレゼンテーションスキル養成プログラムとして話題になっている、エレベータープレゼンテーションにトライしてもらいました。

2月12日は2014年度最後の授業です。前半は「ジェンダーについて考えてみよう！」、後半はエレベータープレゼンテーションの続きを行いました。最後に学院生(清水皓裕・溝口渥太・佐藤裕友・山川冨子・尾林舞香・高山千恵・久保田怜奈・萩野結衣・玉手萌衣・垣野結衣)が、これから中学進学・6年生になる藤田小児童に対してメッセージを伝えて、1年間の講義を締めくくりました。

■ 麹菌プロジェクト始動

このプロジェクトは、調味料として話題となっている塩麹がどのように「おいしさ」に影響を与えているのか、を解明しようとして始めたものです。丁度、豆麹文化圏である名古屋のSSH校である名城大学附属高校が豆麹の研究をしていることから、米麹文化・豆麹文化という地の域差を踏まえ、共同研究として連携することとなりました。3月15日(日)双方の研究発表と打ち合わせを目的に、江幡咲希・木大恵里佳の2名が名城大学附属高校を訪問しました。午前中双方の研究発表、研究方向のディスカッション、午後、麹菌のデンプン・タンパク質分解の実験を行いました。国内の地域差を踏まえた共同研究は、SSHプロジェクトにおける新しい方向になると思います。今後の成果を期待します。

■ 川のシンポジウム （3月21日）

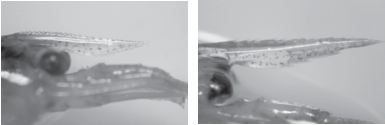
早稲田リサーチパークコミュニケーションセンターで2015年春「川のシンポジウム～元小山川を取り巻く環境について～」が開催されました。この日、本庄学院からは佐藤裕友・溝口渥太・垣野結衣・萩野結衣・久保田怜奈が、前半に藤田小とのプログラムの紹介およびその教育効果について、後半に、研究を始めた本庄市内河川における川エビの外来エビによる汚染状況について報告を行いました。

■ 第1回「これがサイエンスだ！」（4月22日（水））

「暗号・人工知能・誤り訂正符号 →現代社会を支える数学の秘密」をテーマに、本学院数学科非常勤講師である齋藤翔太先生から、バーコードを間違いなく読み取るための仕組みやネットショッピングで使われている暗号の理論的なお話しをしていただきました。生徒たちは社会や実生活で使われている数学を身近に感じることができたようです。

■ 2015年度河川研究班始動！

今年度の河川研究班メンバーは、1年香掛理美・小泉悠登、2年萩野結衣・垣野結衣・玉手萌衣・久保田怜奈・高崎航平、3年溝口渥太・山川冨子・佐藤裕友・尾林舞香・高山千恵の12名です。今年度は藤田小との合同河川調査・年間講師の他、川エビの汚染状況の調査・地下水のNOx汚染の調査、南三陸研修を軸に活動を行います。(左画像：外来種のヌマエビ類、右画像：在来種のヌカエビ、ヌマエビは目上部の鰓角部分にトゲがあり、鰓角下部のトゲが細い、ヌカエビは目上部の鰓角部分にトゲがなく、鰓角下部のトゲが階段状、埼玉県の河川は秩父以外ほとんどヌマエビに占領されている。)



■ 藤田小学校での第1回目講義 （5月13日）

この日の講義は「目の錯覚」をテーマに行いました。前半は、様々な目の錯覚や顔認識についての講義、後半は錯視ドラゴンをみんなで作りました。今年の藤田小は6年生22名、5年生14名と小所帯で、密な授業ができます。

生徒達の活躍

◆ 硬式野球部

春季県大会北部地区予選
1 回戦 4/15(水) 9-0 (7c) 対熊谷商業高校 於熊谷公園球場
代表決定戦 4/17(金)10-0 (6c) 対秩父高校 於熊谷公園球場
春季県大会
2 回戦 4/26(日) 4-9 対春日部東高校 於上尾市民球場

◆ バレーボール部

新人大会県北予選 1/24、1/25
2 回戦 早大本庄 2 (25-19,25-15) 0 桶川
準決勝 早大本庄 0 (13-25,6-25) 2 正智深谷
代表決定戦 早大本庄 2 (25-15,25-23) 0 松山
新人県大会 2/7
早大本庄 0 (16-25,15-25) 2 大宮工業
埼玉県北部春季大会 4/25,4/26
2 回戦 早大本庄 2 (25-17,25-22) 0 東農大第三
準決勝 早大本庄 0 (20-25,13-25) 2 本庄

◆ 陸上部

県学校総合体育大会陸上競技の部 北部地区予選会
4/24～26 (熊谷文化スポーツ公園)

男子
200m 優勝 宮川智安(3C)
400m 優勝 宮川智安(3C) 4位 鈴木颯人(3G)7位 東和志(3C)
800m 4位 東和志(3C)
1500m 6位 佐藤光(3E)
110mH 優勝 加藤誠也(1E)
400mH 5位 松久保 大智(1B)
3000m障害 8位 伊藤諒(3H)
4X100mR 7位 早大本庄 関将吾(3H) 岩本一真(3E) 岡部裕人(2C) 佐藤匠(3F)
4X400mR 6位 早大本庄 関将吾(3H) 岡部裕人(2C) 山本飛(2C) 佐藤匠(3F)
走り高跳び 6位 岩崎直哉(3E)
走り高跳び 2位 佐藤 匠(3F)4位 加藤誠也(2B)
八種競技 2位 加藤誠也(2B)3位 岩崎直哉(3E)
総合2位
女子
800m 4位 宮島瑞生(2G)
3000m 8位 玉手萌衣(2H)
110mH 1位 原田理沙(3H)
4×100mR 8位 早大本庄 伊達美香(2A) 田島春輝乃(2D) 野口奈津樹(3G) 秦絵里香(3H)
4×400mR 7位 早大本庄 鈴木瑞梨(2B) 田島春輝乃(2D) 伊達美香(2A) 秦絵里香(3H)
走り高跳び 5位 森はるか(2D)6位 原田理沙(3H)
槍投げ 6位 小栗円香(2E)

全国高校総体 埼玉県予選会 陸上競技の部 5/9～12(熊谷文化スポーツ公園)
4種目に入賞し、山梨県甲府市で行われる関東大会への出場権を得ました。

男子
400m 優勝 宮川智安(3C) 5位 鈴木颯人(3G)
800m 6位 東和志(3C)
八種競技 3位 加藤誠也(2B)
4×400mR 4位 早大本庄 岩崎直哉(3E) 鈴木颯人(3G) 東和志(3C) 宮川智安(3C)

◆ 硬式テニス部

全国私学テニス大会
(1/31,2/1, 於ブルボンビーンズドーム(兵庫))
木元風哉 コンソレ
勝ち上がりベスト17位
学校総合体育大会兼関東予選地区大会
男子シングルス
優勝 木元風哉、4位 岩満大輔、5位 相原賢太郎、10位 黒井瑞規、21位 村松大地、26位 金子雄、28位 船山貴志
男子ダブルス 優勝 木元・岩満、4位 相原・村松
女子シングルス 4位 舟橋南、6位 伊藤三瑠、14位 櫻井麻緒、18位 高梨綾希子
女子ダブルス 2位 舟橋・伊藤、3位 櫻井・高梨
関東予選大会(県大会)
男子シングルス
3位 木元風哉(関東大会出場)、ベスト32 岩満大輔、ベスト64 相原賢太郎
男子ダブルス ベスト32 木元・岩満
女子シングルス ベスト64 舟橋 萌
女子ダブルス ベスト32 舟橋・伊藤



◆ ラグビー部

新人戦県北大大会
1 回 戦 12/20(土) 早大本庄 40-22 本庄第一
準々決勝 12/25(木) 早大本庄 33-7 進修館
決 勝 1/7(水) 熊谷工業 55-19 早大本庄

新人県大会
1 回戦 1/12(月) 早大本庄 12-5 春日部
2 回戦 1/19(日) 昌 平 31-12 早大本庄
敗者戦 1/24(土) 伊奈学園 50-19 早大本庄
7・8位決定戦 1/31(土) 正智深谷 59-10 早大本庄
関東大会県予選
1 回戦 4/19(日) 早大本庄 33-5 大 宮
2 回戦 4/24(土) 早大本庄 77-0 越谷南
準々決勝 4/29(水) 深 谷 104-3 早大本庄

昨秋完結した高橋組は、前チームからのFW強化策に加え、特に接点での基本スキルを一から見直すことから始めました。その甲斐あってか、新人戦で8強入りすることができ、関東大会予選でも5年ぶりのベスト8進出を果たしました。次の目標は5月末から始まる国体県大会で優勝して、秋の全国大会予選の第5シードを獲得することです。今後とも応援のほど、よろしくお願い致します。1年生諸君、ラグビーは本当に素晴らしいスポーツです!!少しでも興味のある人は是非グラウンドへ見学に来て下さい!!

◆ サッカー部

スポーツマネジメント株式会社主催「全国ユース新人戦ステージ2」
3/26(木)～29(日) @茨城県波崎サッカータウン 優勝
中島剣士郎(2G) 埼玉県U16高体連選抜
釜山遠征 (3/26(木)～29(日))選出
平成27年度学校総合体育大会兼高校総体埼玉県北部支部予選
5/2(土)・5(火) @桶川高校地 ブロック代表(県大会出場)
2 回戦 早大本庄 6 - 2 熊谷西
x代表決定戦 早大本庄 8 - 0 深谷商業
※県大会は6/6(土)より開催

◆ ソフトテニス部

4 月 関東大会埼玉県北部地区予選 (個人戦)
第3位 星名優作 (3D)・小川功輝 (3C)ペア
ベスト32 高橋泰士 (3E)・門間拓斗 (3D)ペア
木村亮成 (2C)・西尾裕一郎 (2D) ペア
敗者復活戦 小坂機歩時 (3E)・兼田崇裕 (1B) ペア
辰巳健乃実 (1H)・松村奈央子 (2F)ペア
※上記5ペア (男子4、女子1) が県予選会に出場。
5 月 関東大会埼玉県予選
個人戦 上記5ペアともベスト128
団体戦
男子 出場者:星名・小川、高橋・門間、小坂橋・小池準弥(1E)
2 回戦 対川口北 3-0
3 回戦 対昌平 2-1
4 回戦 対本庄第一 2-1
準々決勝 対大宮西 0-2
女子 出場者:辰巳・増田芽吹(3F)、増田美樹(3E)・松村、宮下桃香(1H)・伊藤星良(2D)
1 回戦 対伊和 3-0
2 回戦 対南陵 1-2
※団体男子は県ベスト8になりました。学院では4年ぶりとなる大健闘です。

◆ 剣道部

剣道県北大大会(寄居アタゴ記念体育館)
4/18(土)団体戦 男子3位(～3季連続)・女子5位。
4/19(日)男子個人戦 5位 (3年C組 村田浩治)。
関東県予選会(県武道館)4/27(月)
女子団体16位
寄居町剣道大会(アタゴ記念体育館)5/5(水)
高校一般女子団体戦第3位。

◆ スキー部

参加日	大 会 名 / 成 績
1/8-9	平成26年度学生総合体育大会兼インターハイ予選 永井颯馬 大回戦6位、回戦4位 この結果関東大会及びインターハイ出場決定 平井綾乃 大回戦2位、回戦2位 この結果関東大会及びインターハイ出場決定、 また女子学校対抗埼玉県2位 青沼将太 B大回戦1位
1/16-17	平成25年度国体予選 (大回戦) 埼玉県選手権 (回戦) 永井颯馬 大回戦4位 この結果第70回国体に出場 埼玉県選手権 回戦18位
1/21-22	平成25年度国体予選 (群馬) (大回戦) 平井綾乃 大回戦5位
1/24-26	第6回尾瀬戸倉ジャイアントスラローム大会 永井颯馬 大回戦62位、66位 平井綾乃 大回戦32位、29位
1/26-28	第50回関東高等学校スキー大会 永井颯馬 大回戦29位 回戦DF 平井綾乃 大回戦7位、回戦12位 この結果平井は大回戦で表彰
1/31-2/1	埼玉県選手権 (大回戦) スキー大会 永井颯馬 大回戦21位
2/20-23	第70回国体冬季大会スキー大会 永井颯馬 大回戦109位
2/6-10	第64回全国高等学校スキー大会 永井颯馬 大回戦129位 回戦84 位 平井綾乃 大回戦55位、 回戦39位
3/22-26	FS2015 菅平高原バイニックカップ兼 第81回長野県スキー選手権大会 平井綾乃 大回戦1戦目34位、2戦目39位 回 戦1戦目38位、2戦目36位
3/29-31	平成26年度埼玉県高校新人大会 平井綾乃 大回戦1位、回戦2位 青沼将太 大回戦24位、回戦DF

◇ 囲碁将棋部(囲碁)

第9回全国高等学校囲碁選抜大会(東大阪市) 3/21,22
5位入賞 3A 齋木果穂
全国高等学校総合文化祭 埼玉県最終選考会 5/10
優勝 3A 齋木果穂
※7/30,31に滋賀県で行われる全国高等学校総合文化祭囲碁部門に出場決定

◇ SSHクラブ

日本物理学会 Jr.セッション 3/22 会場 早稲田大学
奨励賞 2014年度 3年 富岡 健太
「ギボートマクマホンサイクルによる冷凍機の実験」

◇ グリークラブ

NHK B.Sプレミアム「新日本の歌」に出演し、4/26,5/2,5/15に放送されました。 本庄市民文化会館にて4/16収録、歌手のジェロさんの歌う「見上げてごらん夜の星を」、和田青児さんの歌う「田園」のバックコーラスを31名で歌いました。楽しく歌うことができ、よい記念になりました。
6/7には埼玉会館で埼玉合唱協会に80名の部員全員で出場します。

◇ World Youth Meeting 2014 “Happiness Called Sharing” プラチナ賞

◇ ESS部

第2回全国高校生英語プレゼンテーションコンテスト 2014/10/5
第5位 山川冨子 (2014年度2H)

「30周年記念教育環境整備・充実事業募金」への ご支援に心より御礼申し上げます。

2010年4月から5年間にわたり展開してきました「30周年記念教育環境整備・充実事業募金」につきまして、多くの皆様よりご支援を賜り、2015年春の終了時点で7,400万円を超える寄付を賜ることができました。あらためて多くの皆様のご厚志に深く感謝申し上げます。

皆様のご支援のお陰で、2012年には新校舎、2015年には稲稜ホールが竣工し、生徒が最新の機能を備えた教育環境で学ぶことができるようになりました。今後も次代を担う優れた人材を育成するため、一層の努力を重ねてまいります。引き続き皆様のあたたかいご支援をお願い申し上げます。



2015年竣工の稲稜ホール